



巡礼その二十七 カトマンドゥ 2

2007年4月29日

6時起床、7時30分タクシーで渋谷へ、8時9分の成田エクスプレスに乗る。成田は空いていた。出発が1時間遅れるのできつねそばとたぬきそばを食べて本屋でブータンと台湾の本を買う。機内の昼食はチキンカレー、妻はむつの蒸し物を食べる。映画はドリームガールをやっていた。シュープリームスとモータウンの話でとても面白かった。軽食はオープンサンドで美味しかった。入国審査まで迷路の様な列を通り、パスポートを出すが入国カードがなく書かされた。バイシャリーが出国カードだけくれて入国カードを忘れたからであった。やっと外に出るとそこはやはりインドであった。機内で43度と言っていたが懐かしい暑さで、ガイドのアジットに会い、空港に近いだけを取り柄のセントゥールへチェックインする。風呂に入り8時45分に寝る。

4月30日

4時に起きて6時に庭を散歩して朝食を食べていたら、このレストランで食事をしていた30ほどのインド人旅行者がいきなり怒鳴りだした。大変な騒ぎになり、レストランのマネージャーやホテルの支配人が飛んできて何やら謝罪しているようであるが旅行者は収まらず、さらに怒鳴りあっている。後で聞いた話であるが飛行機が遅れてチェックインしたが部屋がとても汚く、朝食にイドリーがなかったために爆発したらしい。確かにこのホテルは空港が近いことをいいことに値段は一流であるが中身は5流である。確かに不潔である。空港へ行く。今回はデリーカトマンドゥ間もビジネスクラスである。ラウンジでジュースと紅茶を飲んだ。JAT エアラインのシートは幅は広いが長さがあまりないので少し苦しいが問題ない。お昼はチキンとクスクスのバルサミコサラダと絶品のココナッツチーズケーキであった。間違えてインド人用の入国カードをもらい、あわてて書き直す。20年ぶりの空港はあまり変わっておらず相変わらず小さい。ガイドのビベックに会い、すぐに SURIYA BINAYAK (BINAYAK

はガネーシャ) へ行く。アルニコハイウェイは一車線で 30km しか出せない。ちょうどバクタプールの町の反対側の丘の上にある。車を降りて階段を上がって行くと結婚式のパーティーをやっていた。本尊は石のガネーシャで赤い染料を塗られ、すり減って形態をとどめていない。至る所にヴァーハナの尖りネズミがいる。次に NARA の町へ行く。道がとても悪い。BHAGWATI 寺院は小学校の隣にあり、ちょうど子供が沢山出てきた。ここに白のマチェンドラナートが安置されている。KARUNAMAYA 寺院は十字路にあり小さな沐浴場が付いている。本尊はよくわからないが多臂の神である。BANEPA の町は大きな町で子供は 100%小学校へ行くそうだ。町中のヴィシュヌ寺院と周囲に彫刻のあるプールを見る。この町には古い建物はあまりない。今夜とまる DHULIKEL の MIRABEL RESORT HOTEL にチェックインして荷物を置いてまた観光する。DHULIKEL の町は古い家並みが良い。カーリー寺院へ行って町並みやヒマラヤを見る。帰りにマンゴーを4つ買う。ホテルはとても見晴らしがよく、4月にしてはヒマラヤがよく見えた。部屋はきれいで広く、ベランダからはもちろん、風呂からもヒマラヤが見えた。夕食はビベックとホテルでナポリタンとスープを飲んだ。

5月1日

5時に起きてホテルの屋上から日の出を見る。微かにヒマラヤが見える。7時朝食、目玉焼きとポテトを食べる。今日は1日トレッキングである。ホテルから町を抜け、丘の上のカーリー寺院まで45分、カーリー寺院には軍隊がいる。そこからとても気持ちのよい田舎道を1時間のんびり歩くと舗装道路に出る。道路を横切って今度は上り坂を1時間ほどで小さな村があり、ここでチャイ休憩。さらに1時間ほどで NAMOBUDDHA の麓に付く。かなりきつい上り坂を15分位登ると NAMOBUDDHA である。途中水が無くなり妻が脱水症状を起こし貧血状態になるが、境内では冷たいミネラルウォーターを売っている。ボトル2本を飲み、タオルで頭を冷やして元気になる。頂上の菩提樹の下に小さい堂があり、灯明がいっぱい付いている。私も灯明を買ってお祈りする。ここは仏陀伝承の地で、堂の中には捨身飼虎のレリーフがある。ここからは下りで PANAUTI を目指す。45分ほど下った所で妻が悲鳴を上げて転んだ。足をくじいてしまったようだ。もしかすると骨折かもしれない。何とかビベックと二人で妻を支え車が入れる所まで運ぶ。幸い触らなければ激痛はないとのことで、まずは PANAUTI の町まで行き昼食にする。HOTEL PANAUTI に行き、ロビ

ーで妻の足を調べ氷で冷やす。妻が歩けないので、チャーハンと焼きそばを持ってきてもらう。30分経ってだいぶ楽になってきたがまだ食事が出来てこない
のでビベックと観光に行く。とても落ち着いた綺麗な町で川が流れており聖地
の雰囲気がある。吊り橋を渡り川向こうへ行く。INDRESHWAR、
BRAHMAYANI, KRISHANA NRARAYAN(PANAUTI)を見学する。クリシュ
ナ寺院の外壁にはヴィシュヌの化身が描かれとても興味深い。ホテルに戻ると
妻はロビーで寝ておりだいぶ良くなったようだ。食事をしてまずバクタプール
へ行く。20年前に来た時に、ここに住んでみたいと思った場所で、町はあまり
変わっていない。今回はこの世界遺産の町の中のホテル SUNNY GESUT
HOUSE にチェックインする。とても古い建物を利用した小さいホテルで前は
BHAIRAB 寺院、隣は NYATAPOLA 寺院である。通りに面した一番いい部屋
でセミダブルのツインでとても広い。窓を開けると真ん前が BHAIRAB 寺院で
広場が丸見え、シャワールームの窓からは NYATAPOLA 寺院が見える。残念な
ことに3階である。妻が階段を登れるか。もちろんエレベーターはない。何と
か部屋に入り、足の手当をする。明日も変わらなかつたらカトマンドゥの病院
へ行く。妻を休ませ、ビベックとバクタプール観光へ行く。ホテルに戻り部屋
の窓から広場を眺めていたら夕立が来た。広場は観光客で一杯であるが、4時
頃から観光客はいなくなる。すると今度は町の人のための生活用品を地べたの
上に青いビニールシートを広げ売る露店でいっぱいになり、買い物客でごった
返す。そこへ夕立である。お客は寺院の下へ行き、露天商もいっせいに商品を
集め寺院に避難する。なれたものである。夕食はホテルのルームサービスでト
マト、オニオンスープ、ナスのラザニア、ホウレン草のラザニアを食べる。す
べて美味しい。カトマンドゥはヨーロッパ人観光客が多いので、イタリアン
が本格的である。6時から8時まで停電でローソクの下で料理を食べる。この
日は翌日が満月なので釈迦の誕生日である。僧を始め赤いサリーを着た女の
人や、子供、男性もローソクを持って寺院をまわる人々が列をなして広場に集
まる。停電で光はローソクだけである。とても美しく幻想的である。

5月2日

4時30分起床、明るくなったら一人で町の寺院を見に行く。もう人々が動き
出している。昨日まわれなかった寺院をじっくり見学する。6時30分に戻り朝
食。妻はつかまれば歩けると言うので一安心。ルームサービスで朝食を頼むが、
屋上のレストランへ行けると言うので4階のオープンエアーのレストランで、

目玉焼き、ポテトとチーズトースト、コーヒーを飲む。とても気持ちがよい。

7時30分 CHANGU NARAYAN 寺院へ出発。山道をどんどん登って行くと参道がある。車を降りて参道の階段を登ると左右に店がある。有名な寺院なので参拝客が多いのであろう。今回の目的の一つにカトマンドゥを囲むように各々4つの NARAYAN (ヴィシュヌ神) 寺院、VARAHI (ヴィシュヌ神の化身ヴァラーハの配偶者) 寺院、BINAYAK (ガネーシャ神) 寺院、YOGINI 寺院 (シヴァ神の配偶者)、MACHHENDRANATH (観音菩薩) があり CHANGU NARAYAN 寺院は4つの NARAYAN 寺院の東寺院であり、世界遺産である。ここは本堂も良いが目的は境内にある石仏である。本堂の裏には10ルピー札に使われた5世紀のひざまづくガルダ像がある。その他ガルダに乗るヴィシュヌ、ヴァーマナ、ナラシンハなど素晴らしい像がある。妻もゆっくりなら歩けるのでとてもうれしい。観光客はあまり訪れないが、ぜひとも訪れるべき寺院である。バクタプールへ戻り、JAYA VARAHI 寺院へ行く。VARAHI や YOGINI など女神を祀った寺院は生け贄を捧げるので血で洗われている。特に今回は満月なので至る所で生け贄を捧げた跡があった。次に急な坂を上って隣町の THIMI へ行く。とても雰囲気のある高台の町で BALKUMARI 寺院と BHAIRABA 寺院を見学し、10時になったのでチャイを飲む。これからパタンの町へ行く。パタンの町はとても大きく人も車も多い。今日は仏陀の誕生日なのでどこの寺院もすごい人である。仏像(赤マチェンドラナート)をのせた山車が出ていて町を練り歩くのであるがなんと車が壊れてしまい立ち往生している。お昼になったのでモモを食べにレストランへ行く。モモには野菜、水牛、ブタ、チキン、魚、エビがあり、蒸したものと焼いたものがある。さらにチベット風は餃子の形をしており、ネパール風は小籠包みたいな形をしている。水牛のチベット風で焼いたもの、これにはチリソースが付いており、野菜のネパール風で蒸したもの、これはカレーソースが付いている、を食べる。とても美味しい。フライドチキンも食べる。ここのウェイターは言葉がしゃべれないのでゼスチャーで頼む。冷たいものを頼む時は凍えた振りをする。午後はカトマンドゥの南にある VAJRA VARAHI 寺院へ行く。暗い森の奥にあり、参道を歩いて行くといきなり明るい開けた場所になる。とても良く整備されているが独特の雰囲気がある。車に戻りさらに南下すると山の中に入って行き、道も凸凹が激しくなる。この先に採石場があるためにトラックが多い。目的の TIKA BHAIKAB 寺院は採石場の2つの川の合流地点にあり手すりのない橋を渡る。

本尊は自然石でその一部をコンクリートの壁で覆い、屋根が掛けられている。コンクリートの壁には巨大な目を持ったとてもプリミティブなバイラブ神の絵が描かれている。時々地元の人がお祈りをして行く。採石場で働いているのはすべて女性で、ハンマーで石をたたき細かくしている。一度パタンまで戻り市内の寺院を見学して今夜とまる GODAVARI RESORT HOTEL へ行く。小高い丘の斜面にあるとても綺麗なリゾートで、まわりは棚田で素晴らしい眺めである。部屋はコテージタイプでフロントの建物からとても遠いが見晴らしが最高できれいな部屋である。妻の足が心配なのでフロントの近くの部屋を見せてもらったが良くないので元の部屋にする。レストランは部屋とフロントの中間にありとても感じが良い。ドイツ人の団体が食事をしていて、イタリア人と違いうるさくなくてよい。アヒルと春巻きと魚の甘酢餡かけを頼む。お皿に盛ったご飯にアヒルと春巻き、魚を取り分けてくれる。春巻きは中に焼きそばが入っていて美味しい。デザートにカラメルクリームを食べる。

5月3日

6時起床、7時朝食、オムレツとコーヒーとトーストを食べる。斜面に作ったガーデンが美しくバラが満開であった。今日はカトマンドゥーで一番高い山 PHULCHOWKI MAY に向かい、麓にある PHULCHOWKI MAY 寺院を見学する。山を登る前にお参りする寺院で、立派な沐浴場がある。近くに GODAVARI KUNDA と呼ばれる聖なる泉がありとても湧出量が豊富で、町からタンクローリーが水を汲みに来る。とても大きな沐浴場と水汲み場があり、ムカリンガが祀られている。このまわりに小さな5つの祠堂が並んでいる。4つのナラヤン寺院の内、南のナラヤン BISHANKHU NARAYAN 寺院はここからすぐの山の中腹にある。この寺院には祠堂はなく岩の割れ目が本尊になっている。どうしてここが聖地なのかよくわからないがとても原始的で、アニミズムの影響を強く感じる。パタンに戻り、昨日のレストランで水牛の子ベツ風焼きモモと水牛のネパール風蒸しモモ、パコラ、ソーセージ、クラブハウスサンドイッチを食べる。デザートにチョコレートとバニラの2色アイスクリームを食べる。午後は DAKSHINKALI 寺院へ行く。不思議なことにカトマンドゥーの南側の道はパタンのリングロードから数本出ているが、横のつながりが全くない。そのため GODAVARI KUNDA も DAKSHINKALI もそんなに遠くないが一度パタンまで戻って別の道を通るので時間がかかる。DAKSHINKALI はカーリーを祀る寺院で生け贄の聖地としてとても有名である。そのため遠くから沢山の人が

生け贄を捧げにやってくるので珍しく広い駐車場を持っており、参道の両側にはお土産物屋、お茶屋、食堂、マリーゴールドやココナッツなどの捧げものを売る店が並んでいる。土曜日は供儀の日なので特に沢山の人が集まる。ヒンドゥー教徒以外は生け贄の場所に入れないが、屋根がなく低い柵だけなので内部の様子はよく見える。中央奥に本尊のカーリー女神像、正面左に小さなカーリー女神像が7体安置され、供儀はその7体の前でおこなわれる。生け贄の動物は、鶏、アヒル、ヤギ、ブタ、水牛、などすべてオスでヤギなどは黒いものが好まれる。信者はこれらの動物を家から持ってくるか、寺院で購入する。まず生け贄の動物に聖水をかけ、動物が震えれば動物が生け贄になることを承諾したことを表し、震えなければ震えるまで何回も聖水をかける。次に屠殺者がカーリー女神の前で動物の喉を切り、血をカーリー女神像にかける。そして頭を切り離し、信者は頭と胴体を受け取って付属の解体小屋へ行き、解体してもらう。解体した肉は家に持ってかえって食べるか、その場で（寺院の周囲はピクニック場のようになっている）調理して食べる。ほとんどの信者は鍋や包丁、炭などの調理器具と、野菜、米、調味料などの材料を持ってきており、ほとんどピクニックのように家族団欒で食べる。しかしこの食事も神聖な儀式の一部で感覚器官を食べる時は順番があり、一番年長の男が目、次が耳、鼻、舌、の順に年長から食べる。我々の生活にはこれらの動物が犠牲になっているということ認識することが大事である。命に対する畏敬の念を持って食べ物を粗末にすることなく、一家で大事に食べる肉の味は家族の絆を深める。ほとんど豆のカレーの毎日で一家そろって肉を食べるのは特別な日である。みんなの満足そうなそして幸せそうな顔がこの日がハレの日であることを物語っている。今回見学している間にヤギ2匹、アヒル1匹、ニワトリ3匹が捧げられた。VAJRA YOGINI 寺院があるファルピンの町はゴンパがそびえるチベット村である。寺院は民家の中にあり階段を登り狭い門を入るとヨギニ寺院独特の雰囲気がある。この近くに4つのナラヤン寺院の一つ SEKH NARAYAN 寺院がある。この寺院は垂直の岩に祠堂がくっ付いている。この祠堂の隣にリッチャビ時代に作られたヴァーマナの石像がある。素晴らしい石像であるが金網に囲まれてよく写真が撮れない。CHANG NARAYAN の像によく似ている。下の池には魚が沢山泳いでおり、池の中にスーリヤの石像があった。CHOBAR の JAL BINAYAK 寺院へ行く。CHOBAR は溪谷になっておりとても高い吊り橋が架かっている。流れが速く、ここを過ぎると川幅が一気に広くなりとても緩やかな流れに変わ

る。流れの緩やかになった岸边に、JAL BINAYAK 寺院が建っている。本尊は自然石のリングで原始的である。方杖もエロティックである。CHOBAR の町の中にある ADINATH LOKESHWAR 寺院は仏教寺院で三重塔に鍋やお皿がびっしり付けられている。ここも方杖がエロティックである。町中でおじさんがネパール独特の賭博をしていた。ここから PATAN の隣町 KIRTIPUR へ行く。UMAMAHESHWAR 寺院はとても大きな寺院で安産の守り神である出産の女神像があるととても興味深い寺院である。また壁画も残っている。SHILAN CHU VIHARA 寺院は立派なストゥーパがあり、その四方には小さなストゥーパがある五点型である。PATAN の町に入る。SI BAHAL は五仏の壁画がある。BU BAHAL は大きな寺院で観音菩薩が祀られている。特に興味深いのは寺院正面の左右のタイルの壁に付けられた彫刻で左右にマーヤ夫人が木にもたれかかっている。右側にある右腕をあげている彫刻は右腕の下に仏陀が描かれている誕生図で、左側にある左腕をあげている彫刻には仏陀はいない。なかなか面白い意匠である。いよいよ GOLDEN TEMPLE へ行く。やはり観光客が多い。入り口の天井に曼荼羅が彫刻されているがみんな気がつかない。中庭に降りるためには靴を脱ぐ。小さいが見応えのある寺院である。面白いのは4隅にあるサルの像（ハヌマン？）ですべて仕草が違う。殺生は禁止なのでネズミが至る所で走り回っている。今日はカトマンドゥの DWARIKAS HOTEL に泊まる。町中にあるがホテルに入るととても静かで良く整備された庭に3階建て6室の建物が点在している。ここの特徴はオーナーがネパール中の壊されそうな古い建物の建材を譲り受け、リストアしてホテルを建てる時に使用することである。内部の家具はもちろん窓や外壁の一部に使用しているので古い時代にもどったようで楽しい。設備はもちろん近代的である。良い部屋を用意してくれたが3階でエレベーターはない。すぐにバスタブにお湯を張り入浴したが排水が悪く洗面所が水浸しになったので部屋を変わってもらった。夕食は中にあるレストランでエビチリライス、ペンネアラビータ、サラダはナスとトマトを焼いてサラダ菜と混ぜとろけるチーズをのせてあるもの注文する。サラダは絶品であったが値段も一流であった。

5月4日

6時起床、6時30分朝食、マサラオムレツを食べる。7時出発、今日はカトマンドゥ観光である。町中にあるカーリー寺院へ行くが次から次に参拝者が来る。

MACHHENDRANATH 寺院に入ると 20 年前を思い出した。この寺院は破風が素晴らしいが本堂周囲に貼られた金箔のまるで仏像図形の教科書のような仏像の彫刻に圧倒される。方杖も出来が素晴らしい。ダーバースクエアに行くがまだ早朝なので人が少ない。さすがにヒッピーの笛売りはいない。昔の記憶がいろいろ出てくる。以前は気がつかなかったが KASTHAMANDAP 寺院の中には四方にガネーシャが祀られている。JAGANNATH 寺院はとてもエロティックである。KUMARI 館の彫刻は素晴らしい。一通り見学して VAJRA YOGINI 寺院のある SANKHU へ向かう。市内の道がボダナートの辺りで大渋滞である。カトマンドゥの交通マナーの悪さはおそらく世界一であろう。道が狭いのにバスやミニバスが交差点であろうとどこでも止まって人を乗せる。対向車線を平気で走る。渋滞しているとみんな反対車線を走るので、今度は反対車線も渋滞する。最悪である。奇跡的にこの渋滞を抜け東の山の方へ行くと SANKHU の町に入る。この町の入り口に素晴らしいガネーシャ像がある。本来ここから徒歩できつい坂道はかなり上らなければならないが我々の 4WD の車なら何とか登れるとのことで車で向かう。寺院の裏まで登ることが出来た。日本の山岳寺院のように凜とした雰囲気である。境内にはビハーラもあり飲み物を売っていたのでファンタオレンジを飲む。なんとここでは野生のサルとイヌがとても仲がいい。帰りは渋滞をさけて凸凹の裏道を通り GOKARNA MAHADEV 寺院へ行く。バグマティ川の川縁に建っており、沢山の彫像が安置され、ヒンドゥー教のパンテオンを作っている。ほとんどの像は新しいが、8 世紀の素晴らしいパールヴァティー像もある。残念ながら金網付きの堂の中にあるのでよく写真を写せない。

DHUM VARAHI 寺院は町の外れの丘の中腹にあり、小さな堂は巨大な木の根っこに包まれている。金網越しに真っ暗な中をのぞくとヴァラーハが安置されていた。カトマンドゥの町のチベット料理屋へ行く。ここはビベックのお気に入りの店である。水牛の舌やネパール風ピザが最高においしい。ご飯はお米を炊いて干したもので日本の干飯である。その他ヒエや粟の様なものが主食である。モモやソーセージも食べた。午後は BUDHANILKANTHA へ行く。ここも地元の人が沢山お参りに来る。異教徒は入れないが柵越しに見える。素晴らしい彫像であるが残念なことに顔が白塗りにされているのが惜まれる。途中 4 つのナラヤン寺院の最後 ICHANGU NARAYAN に寄る。細い凸凹道をどんどん進むと小さな村がありその突き当たりに建っている。思ったより立派な寺院

で、原始的な雰囲気を漂わせている。彫刻も出来が良い。SWYAMBHUNATH は一番下から参道を登る予定であったが妻の足のため裏から車で行く。境内はとても綺麗になっていた。目的の鬼子母神の祠堂は写せなかった。ここからの眺めは素晴らしくカトマンドゥの町はどこまでも住宅が続いていた。最後に BODHNATH へ行く。夕方の5時になるのでお参りの方がすごい。右回りにぞろぞろ塔の周りを回る。まわりはお土産物屋などの商店で、曼荼羅と仏像を見る。とても細かいカーラチャクラ曼荼羅とマハーカーラの像を買う。ホテルに戻りレストランで絶品のベークドサラダとトムヤムクン、クラブハウスサンドイッチを食べる。

5月5日

6時起床、6時30分朝食、あまり調子が良くないのでトースト一枚にする。まず CHABAHIL のストゥーパを写し、パシュパティナートへ行く。GUHYESHWARI 寺院を外から見学し階段を登って森の中へ行く。この森は人々の憩いの場になっており、朝早くから沢山のグループがヨガや瞑想をしている。またリングを祀る沢山の小祠堂が並んでいる。森を抜けると PASHUPATINATH のガートに出る。今日は軍の大將の葬儀があるので早い時間から用意をしている。観光客は中に入れないので周囲の寺院を観察する。BACHHARESHWARI 寺院はとてもエロティックな寺院で方杖のミトゥナだけ白く塗ってある。また壁面に描かれた絵が面白い。川に降りて川岸を歩く。今は乾期で川の水は少ない。パタンの町へ行き、まだ見ていない寺院を見学しホテルに戻りシャワーを浴びて荷物整理をして空港へ行く。なんともすごい数の人が空港の外に並んでいる。エクス線検査のためである。最後尾に並ぶ。列を守らない中国人ツアー客やすきを見て割り込むインド人、ネパール人と戦いながら何とかエクス線までたどり着く。次に空港税を払い、チェックインする。ビジネスラウンジの券をもらうがどこだか解らず出国のイミグレーションがすごい人なのでとりあえず並ぶ。手荷物検査でリュックの中をグジョグジョにされる。少し進むとまた長蛇の列があり並んでいるとまた手荷物検査で再びリュックの中をグジョグジョにされる。もう外国人も日本人も怒り心頭に達している。普通出発時間が近いと優先させるがここでは出発時間になっている人でもノープロブレムが一番後ろに並ばせる。なるほど出発が遅れる訳である。何とか待合室にたどりつくと、そこはすごい人でサウナ状態である。ここで数時間過ごすことを考えると吐きそうになる。奇跡的に我々のジェットエアーは

すぐにボーディングが始まる（既に30分以上遅れているが）。ものすごい人がいっせいにゲートに集まる。ビジネスクラスは先に呼ばれるので人込みをかき分けゲートを抜ける。ゲートの一番前にいる白人女性が私が一番先だともものすごい顔で怒鳴っている。みんなとてもいらだっている。やっと離陸。デリー空港ではアジットが待っており、南デリーへ買い物に行く。ガラムマサラとチリソースをたっぷり買う。最後に空港の駐車場にあるガイドやドライバーのたまり場でチャイを飲み空港へ行く。なんと手荷物検査でチリソースが引っかかり全部没収された。